



来年4月には「春の特別公開2019」で今回とは異なった朝日遺跡出土国指定重要文化財の展示と、拓本講座とは違ったイベントを実施したいと思います。時期が近づきましたら当ホームページに案内を掲載、市町村図書館などにポスターを掲示する予定ですのでご確認ください。

朝日遺跡：清須市から名古屋市西区にかけて所在する弥生時代の東海地方最大級の集落遺跡。

下山ふれあいまつりに参加しました

調査研究課の岡田です。

10月27日（土曜日）豊田市の下山地区で「下山ふれあいまつり」が行われ、当センターもブースを出展しました。ブースでは、当センターが昨年まで下山地区で発掘調査していた柿根田遺跡、蔵平遺跡、北野田B遺跡などからの出土品の展示を行い、またイベントコーナーとして輪投げも行いました。

ブース来観者は「地元にこんな縄文時代の遺跡があるなんて知らなかった」など驚きの声をあげていました。また、輪投げは子どもたちに大人気で、1人で何回もチャレンジする子もいました。



左：展示ブース 右：輪投げに挑戦。思っているよりも難しいです。

高蔵寺高校の生徒のみなさんが社会見学のため当センターに来館しました

調査研究課の岡田です。

10月25日（木曜日）に高蔵寺高校の生徒のみなさん40名と引率の先生2名が社会見学のため当センターに来館しました。

最初に研修室で当センターの仕事について説明を聞いてもらったあと後、20名ずつの2班に分かれて当センターの施設を見学してもらいました。「一次整理室」では発掘担当者の指示で整理スタッフが土器の計測や接合をしている様子を見てもらい、木器や骨角器など気温や湿度管理が必要な遺物を保管している「特別収蔵庫」や「科学分析室」などを見学してもらいました。

何と言ってもいちばん印象に残ったのは「実物遺物に触れた」ことではないでしょうか。

今回用意した弥生土器や平安時代から室町時代まで愛知県が全国に誇った陶器をじかに手に取ってもらい重さや質感なども感じてもらいました。

短い時間でしたが、生徒の皆さんに「ありがとうございました」と挨拶されると「高蔵寺高校の皆さんを迎えられてよかったな」と思えました。



全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会第31回研修会・視察見学が行われました

調査研究課の岡田です。

10月18日・19日に**全国埋蔵文化財センター連絡協議会第31回研修会**が行われました。今年度は、当センターが研修会担当事務局であったため、「**中世窯の生産と流通**」をテーマに昨年度から準備をすすめ、当日は全国からの参加者を迎えました。

18日メインは講演・事例報告です。常滑や瀬戸、渥美の生産物は全国の遺跡からも出土するということで、県外の参加者も強い関心を持って聴いていました。

19日は視察見学で、「愛知県陶磁美術館」「あいち産業科学技術総合センター」「瀬戸蔵ミュージアム」を見学しました。

愛知県陶磁美術館では屋外に窯跡がそのまま残されており、県外の参加者も興味深く見学していました。あいち産業科学技術総合センターでは、陶器などに残る微量な釉薬の成分などを分析できるそうで、埋蔵文化財の研究者にとっては興味深い話であったと思います。瀬戸蔵ミュージアムでは、愛知で作られた土器・陶器・磁器が時代順に並べられて展示されており、改めて理解が深まったのではないのでしょうか。

当センター以外にも多くの方の助けをいただき成功させることができました。ご協力いただいた方や機関に感謝いたします。



左：研修会開会式の様子

右：愛知陶磁美術館で窯跡を見学しています

東海・北陸ブロック会議に参加しました

調査研究課の岡田です。

10月4日（木曜日）に岐阜市で開かれた「全国埋蔵文化財センター連絡協議会」の「東海・北陸ブロック会」に参加してきました。平成31年度以降の役員の決定、また事前に各団体から出された協議事項について話し合いました。協議事項では遺物の収納、広報活動、また発掘技術者を持った後継者の育成、発掘支援業者とのかかわりについて相互に情報交換を行いました。他団体の工夫ややり方は大変参考になりました。

翌日、5日（金曜日）は施設見学で「岐阜県文化財保護センター」と「岐阜市歴史博物館」を見学させていただきました。「岐阜県文化財保護センター」では遺物の収蔵庫を見せていただきました。しっかり整理されておりかつ、遺物の貸借りの情報はセンター内クラウドを通してすべての職員が共有できるようになっていると聞き驚きました。

岐阜県歴史博物館では「発掘された日本列島2018」が開かれており、こちらを学芸員の方の説明付きで見学させていただきました。

2日間、主催者の岐阜県文化財保護センターの皆さんには大変お世話になりました。2日間でしたが大変有意義な会であったと思っています。



左：岐阜県文化財保護センター

右：岐阜市歴史博物館

十四山中学校文化講座に参加しました

調査研究課の岡田です。

9月19日（水曜日）に弥富市立十四山中学校の文化講座に参加しました。文化講座は十四山中学校学校祭（文化の部）で開かれるもので、校外から様々な講師を招き講座を設けるというものです。

前半は弥生時代の「甕（かめ）」、古墳時代の「S字甕（えすじがめ）」、室町時代の「内耳鍋（ないじなべ）」を用意し「これら共通の用途を考える」という難問に挑戦してもらいました。最初に実際に実物の土器をじっくり持ってみて表面を観察してもらいました。「軽いぞ」「薄いよね」と思わず持った感想が漏れます。そして班ごとに考えを発表してもらいました。

「貯蔵に使ったと思います。なぜならすべての土器の口が広くものを取り出しやすいからです」「運搬に使ったと思います。なぜならどれもとても軽いので物を載せても重くならないからです」「調理に使ったと思います。なぜなら表面にすすのようなものがついているからです。また、薄いと熱が伝わりやすいからです。」

正解は「調理に使った」ですが、どれもよく考えられた解答だと思いました。

後半の拓本講座でも弥生時代の本物の土器片の拓本をとってもらいました。2回、3回と繰り返すうちに上手になっていきました。拓本はラミネート加工してオリジナルのしおりにしました。

講座の設定時間は100分でしたが、あっという間に過ぎ、こちらも参加できて楽しかったです。



左：土器を手にとってみます。

右：拓本の取り方がわかり、拓本どりに集中しています。

岩倉郷土を歩く会の方が来館されました

調査研究課の岡田です。

9月19日（水曜日）に岩倉郷土を歩く会の方24名が来館されました。

かねてより「岩倉市から出土した遺物をじかに見てみたい」という要望をいただいていたので、岩倉市から出土した弥生時代から室町時代の出土遺物（権現山遺跡 岩倉市）（岩倉城遺跡 岩倉市）数点を用意しました。

最初に当センターの説明をし、続いて展示室の展示遺物を見ていただきました。そして岩倉市ゆかりの遺物を実際に手に取って見ていただきました。「こんなにいろいろなものが出土しているんですね」と感想をいただきました。

このあと、皆さんは別の訪問地もあるため、1時間ほどの滞在で次の場所に向かわれました。この日は天気も良く秋風涼しく絶好のハイキング日和でした。岩倉郷土を歩く会の方も、とてもご満足そうに当センターをあとにされたのでうれしく思いました。



豊田市立花山小学校で出前授業を行いました。

調査研究課の尾崎です。

9月7日（金曜日）に**豊田市立花山小学校で出前授業を行いました**。2時間授業を行い、18名の児童のみなさんが参加してくれました。

1時間目は「**発掘調査された下山の遺跡**」というタイトルで、発掘された**本物の土器や石器を用いた授業**を行いました。

まず発掘調査された下山地区の代表的な遺跡について映像資料を使って説明していききました。説明をしたのは下山地区の縄文時代、平安時代、鎌倉時代を代表する**南川遺跡（みなみかわいせき）**、**蔵平遺跡（ぞうひらいせき）**、**北野田B遺跡（きたのだびーいせき）**です。子どもたちは学校のすぐ近くに遺跡があったこと、縄文時代から下山には人が生活していたこと、平安時代には山の斜面に竪穴住居を建てていたこと、木々を伐採して加工していたことなどをはじめて学んでとても驚いた様子でした。

次に実際に出土遺物に触れ、観察し、その遺物の使い方を考えていききました。用いた遺物は、縄文土器、石器、灰釉陶器（かいゆうとうき）、土師器甕（はじきがめ）、山茶碗（やまぢゃわん）です。遺物に施された模様、重さ、使用の痕跡などを手に取って観察してもらいました。はじめて遺物に触れた時の表情から感動や驚き、嬉しさが伝わってきました。

休憩をはさんで2時間目は、遺跡の立地する場所を学ぼうというテーマで、**花山小学校のすぐ近くに所在する南川遺跡まで歩いて見学をしました**。

職員が説明する遺跡がよく見つかる土地条件（河川が近くにあること。日当たりが良い南向きであることなど）をしっかりと聞いていた様子が見受けられました。また自分たちの通学路の下に遺跡が眠っていることを知り、興味津々でした。

今回2時間授業を行い、児童のみなさんが真剣に取り組む姿を見てとてもやりがいを感じました。今後もやりがいを忘れずに出前授業を行ってまいります。



1時間目の授業の様子



上：郡界川を前にして遺跡の立地する場所について学習している様子

下：南川遺跡（みなみかわいせき：豊田市花山町）での見学の様子

和歌山県立紀伊風土記の丘の学芸員さんが遺物の借用にみえました。

調査研究課の岡田です。

8月24日に和歌山県立紀伊風土記の丘の学芸員さんが遺物の借用にみえました。借用された遺物は主に松崎遺跡（東海市）から出土した製塩土器や釣り針などです。これらは9月29日から開かれる秋期特別展「黒潮の海に糧（かて）をもとめて 古墳時代の海の民とその社会」に展示されます。

学芸員さんのお話だと、今から約1500年前の古墳時代にも漁撈（ぎょうろう）や塩づくりを行う海の民がいたそうです。その痕跡は黒潮に沿って広く分布しているそうで、今回の展示のためにいろいろな所から遺物の借用をされるそうです。この日も「この後三重県に行って遺物の借用に行きます」とおっしゃっていました。

皆さんも和歌山県立紀伊風土記の丘に足を運ばれてはいかがでしょうか。



松崎遺跡：古墳時代から平安時代にかけての、知多半島の製塩遺跡として注目されている。また古墳時代後期から平安時代後期までの各時期の貝塚層が確認され、土器、鉄器、人骨、貝類・獣・魚の骨などが出土している。

製塩（せいえん）土器：海水を煮つめて塩の結晶を取り出すための素焼きの土器。愛知県では、カップ状の器に筒状、あるいは角（つ）状の脚を付けたものが出土している

8月9日（木曜日）に高校生のためのサマーセミナーを開催しました。

調査研究課の岡田です。

8月9日（木曜日）に高校生のためのサマーセミナーを開催しました。今年度は県内各地から19名が参加しました。講座の内容は以下の通りです。

講座1 考古学・歴史学をめざすには

～イントロダクション 遺跡の発掘、行政発掘について～

～歴史学・考古学へのアプローチを考える～

講座2 施設見学

～発掘調査のその後を考える～

講座3 出土遺物に触れるその1

～出土した土器から歴史を考える～

講座4 出土遺物に触れるその2

～拓本：土器の文様をうつす～

講座1では最初に発掘に至るまでや発掘の様子について説明し、次に歴史を学ぶ意味や文献史学と考古学の違い、また歴史を活かした進路のあり方について説明しました。参加者からは「発掘の仕組みがよく分かった」という声が聞かれ、進路について深く考えるよい機会になった様子がうかがえました。

講座2は館内を案内し、遺跡から出土した遺物の接合・実測や木製品の保存処理作業、遺物の収蔵・展示を見学しました。参加者は初めて見る作業に興味を持ち、展示遺物について職員の説明を熱心に聞いていました。

講座3は県内各地から出土した土器を用意し、直接手に取ってもらった体験です。参加者には用途や特徴を考えながら土器に触れてもらい、グループごとに発表してもらいました。

講座4は土器の文様を拓本で写し取る実習です。拓本の出来栄は優れたものが多く、参加者は楽しんで取り組んでいました。作成した拓本はラミネートして、オリジナルのしおりを作りました。

セミナー全体の取り組みを通じ、生徒の皆さんが歴史や考古学に対して改めて強い興味・関心を持ったことを職員一同深く感じることができました。

来年も今年以上に生徒の皆さんに関心を持ってもらえるようサマーセミナーを企画してお待ちしています。



開講式



左：施設見学 清洲城の石垣を見学しています。